

遠野の中学校に関わる主な出来事

- 1856(安政3年) 藩校「信成堂」創立
- 1901(明治34年) 岩手県立遠野中学校開校※現在の県立遠野高校
- 1910(明治43年) 『遠野物語』初版発行
- 1947(昭和22年) 新学制の六・三制(小学校6年、中学校3年)で義務教育が9年になる。※現在の中学校のほとんどがこの年に開校
- 1949(昭和24年) 県立遠野高等学校に改称され、男女共学となる
- 1954(昭和29年) 遠野市誕生
- 1955(昭和30年) 宮守村誕生
- 1958(昭和33年) 遠野中と松崎中が統合し、遠野中学校を創設
- 1965(昭和40年) 大出小中学校開校
- 1979(昭和54年) 宮守中・達曽部中・鱒沢中が統合し、宮守中学校を新設
- 2005(平成17年) 遠野市と宮守村の合併により、遠野市誕生。市立中学校は8校となる

- 2007(平成19年) 大出小中学校開校
- 2010(平成22年) 市立中学校8校を3校に再編成する計画を決定
- 2013(平成25年4月) **遠野中学校、遠野東中学校、遠野西中学校開校**

◆参考文献

- 『遠野教育百年の歩み』 1973 遠野市教育委員会
- 『新教育五十周年記念誌 信成』 1979 遠野市教育委員会
- 『遠野市史 第四巻』 1977 遠野市史編集委員会 ほか



青笹中学校



土淵中学校

小友中学校



綾織中学校

遠野中学校



宮守中学校

上郷中学校



附馬牛中学校



中学校再編成特集

※画像は各中学校の旧校舍(宮守中を除く)

八つのありがとう

今年4月、市内8つの中学校は新たな3校に生まれ変わる
遠野の教育の始まりから
これまでの各中学校の歩みを振り返り
母校に、そして新しい中学校への思いをはせる

遠野の教育の歩み

教育の起り

遠野教育の起りは古く、江戸時代までさかのぼる。安政3年(1856)には時の遠野南部氏の領主南部濟賢により、現在の遠野簡易裁判所前に、遠野で初となる教育施設、藩校「信成堂」が新設された。信成堂は遠野で唯一の公的教育機関で、藩士の子弟だけが対象とされた。

その後明治元年(1868)の戊申戦争に敗れた盛岡藩の領地没収に伴い、信成堂は閉鎖。明治五年には学制が公布され、義務教育制となる。これにより小学校が全国に公設され、遠野には大工町瑞応院に横田村第一番小学校が創設された。これを皮切りに遠野にも小学校が続々と創設される。

中学校の始まり

昭和22年(1947)、小学校を6年、中学校を3年とする新しい学校制度の実施に伴い、現在の遠野の中学校の基礎となる中学校が設立された。しかし、終戦後の混乱や慣れない制度が原因で、開校しても校舎や机、教科書や教員がなく、さらには教員も不足した。遠野の中学校においても不足分の

机はリンゴ箱で代用したり、教材は小学校と共用したりしたという話が残されており、ほとんどの中学校は小学校の教室や青年学校の施設を借りるなどして対応した。昭和24年の上郷中学校の建築を皮切りに、昭和28年までには各校とも新校舎が完成した。

終戦後で学校教育が停滞する中、昭和22年に開催された第一回県中学校野球大会で遠野中学校が初優勝。これをきっかけに同中は部活動のほか、教育活動でも市内各中学校をリードするようになった。この出来事から各中学校で互いに競い合う姿勢が生まれ、それぞれの学校において生徒たちの活動が活発になり、部活動でも県内でトップクラスの成績を上げる学校も多くなってきた。

遠野の地域性と教育の関係

盆地で周りを山で囲まれている地理的条件から、元来中央部との接触も少なく、遠野は保守性が強く、閉鎖的といわれる。しかし明治6年に学制が制定され、盛岡に次いで小学校が創設されたことや藩校「信成堂」があったこと、寺子屋が数多くあったことなどから、教育に対する関心は非常に高かった

次のステージへ

平成17年、遠野市と宮守村の合併により、遠野市の中学校は8校となった。少子化により生徒数が減少する中、よりよい教育環境を整備するため、市立8中学校を3校に再編成する「遠野市立中学校再編成計画」を平成22

年と定める。新しい学制が実施された昭和22年から30年代にかけては終戦直後の財政難の中にもかかわらず、地域住民や当時の町村の教育への理解と全面的な協力のもと、新校舎などの整備が進められた。特にも昭和24年に完成した上郷中学校は、地域からの資金や資材、労力など全面的な援助を受け、校舎が建築された。村民の熱意と努力が実ったこの校舎は翌年、優良施設校として文部大臣(現文部科学大臣)から表彰を受けている。

思い出Pick Up

たくさんの思い出に感謝

市内の小・中学校に教員として勤務し、その地域の方々と交流も楽しんできました。中でも思い出深いのは、小友中に勤務し、ソフトボール部監督をしていたころのこと。生徒たちは県で初優勝し、後に8連覇という偉業を成し遂げました。地域を挙げての応援で、小友住民はどんなに遠いところにも駆け付けてくれました。ほかの部活の生徒たちも負けじと練習に励み、互いに切磋琢磨している姿が頼もしかったです。

どこの地域でも生徒たちは地域活動にとっても積極的で、自分のまちに誇りを持っていることが伝わってきました。充実した日々は懐かしく、本当に感謝しています。



66歳 佐々木 謙さん
青笹町



遠野中学校は生徒数が多く、その分考え方もさまざまあります。気持ちを一つにして取り組むことは大変ですが、みんながつながったときに得られる成果や達成感は市内の中学校で一番だと思っています。体育祭は4組に分かれ、それぞれの応援歌もあるほどで、見ている側も楽しめる一大イベントです。花火大会など遠野をあげてのイベントでは、早朝の清掃ボランティアを全校で行うなど、人数を生かした行動ができます。

これまで綾織中、附馬牛中と協議し、3校それぞれに伝えられてきた精神を受け継ぐ「遠野三大精神」を新しい中学校のローガンに掲げました。▽あいつつなど当たり前のことをしつ

遠野全体をけん引する リーダー的な学校にしたい



4組に分かれ競われる体育祭。組体操、棒倒しなどは圧巻の迫力

遠野中学校

★生徒数 349人
★校歌
早池峰の 山脈深く
みどりこき この高原に
若駒のごとくすこやか
胸張りて伸びゆくは誰ぞ
遠野中学 若人われら

かりでできること▽市内の中心部にある学校として何事にもプライドを持って活動すること▽みんなが一つの目標に向かって本気で向かい合えるよう熱くなつて取り組むことです。これらを目指して取り組めば、信頼と団結力が生まれ、遠野全体をけん引できるリーダー的役割を果たせると思います。4月からは1日も早く、3つの気持ちを一つにできるように頑張ります。

自然や人に感謝する気持ち 小友らしさをいつまでも

小友中学生には、ハッと気が付く、私があります。ピンッと決めますの「三大運動」の精神が根付いています。学習や部活、地域活動などあらゆる行動の基礎で、先輩方から受け継いだ「誇り」です。小友中では以前から山からフキを採って業者に売り、その売り上げを部活の道具の購入に充てるという活動をしてきました。働くことのすばらしさを学ぶと共に、自然の恵みに感謝する心が育まれるこの活動は、ほかの学校にはない貴重な取り組みだと思います。文化活動では男女に分かれて別々の歌を同時に歌い、同時に終わる「氷口御祝」※の継承に力を入れて取り組んできました。これらすべてを教えてくれるのは地域



昨年の文化祭で「氷口御祝」を披露する生徒

の皆さんです。私たちは小友の人や自然に支えられていることに感謝しています。学校はなくなりますが、先輩から受け継いだ三大運動の精神は、遠野西中学校になっても守り伝えていきたいと思っています。そして、西中生の第一走者として最高のスタートをきり、後輩にしっかりバトンを渡せるよう、宮守の皆さんと協力していきたいです。

※氷口御祝は3年生が学びます



小友中学校

★生徒数 29人
★校歌
不動の岩に 集いよる
清き流れを
そのままに
鋭き感覚 強き意志
学びの道を ひたむきに



八つの志

その1

それぞれ「最後」と「最初」の中学生を経験する生徒
自分たちの中学校への思い、そして
これからの仲間たちとの交流への思いは？
8中学校の生徒会長にインタビューした

明るく元気に楽しむ気持ち 綾織中の精神を胸に前進したい

綾織中学生には、何事にも明るく元気に楽しくという「明元楽」の精神が根付いています。この言葉が私たちの原動力で、これまでさまざまな活動に取り組んできました。また、地域の皆さんからの支えもあり、長い歴史を歩んでくることができました。地域の皆さんと一緒に資源回収は40数年も続けられ、今では多くの住民の方々が協力してくださり、大変感謝しています。綾織の郷土食や歴史を学ぶ総合学習「綾織人学習」では、地域の方を講師に、綾織ならではの知識や技術を学ぶことができました。このほか清養園スケート場での氷上まつりなど、地域の皆さんと一緒に交流を深めてきたイベントや活動はたくさんあります。



地域住民と長年取り組んでいる資源回収

新しい中学校の生徒数は現在の綾織中の10倍以上にもなり、環境は大きく変わります。不安はありますが、部活動などではたくさんの仲間たちと交流することでレベルアップできるなど、メリットもたくさんあると思います。私たち2年生は新しい遠野中学校の初めての卒業生となります。そのことに自覚と誇りを持ち、「明元楽」の精神を胸に、これからも力強く歩んでいきます。



綾織中学校

★生徒数 32人
★校歌
もゆる緑の 青たみ
美し田広き この土地に
しろがね色に よそおえる
高き理想の 姿もて
わが学び舎は そびえ立つ



附馬牛中学校

★生徒数 31人
★校歌
仰ぎ見る学びの窓に
早池峰の山はかすみり
いざや友 深く学ばん
常緑樹の明日をにないて
燃ゆる希望 希望あり
花ひらく われらの母校

附馬牛中学生には「結束力」があります。互いに主張をしっかりとした上で、一緒の方向に行けるよう協議し合えます。生徒数は少ないですが、上下関係もしっかりしており、礼儀やあいさつなどの基本的なことはしっかりとできるので、信頼関係もあります。これは先輩方の姿勢から自然と学んでいたことで、これまでの附馬牛中生の伝統が私たちの中に生きていることを実感しています。

附馬牛中は地域との関係も密接です。中学校付近にある介護施設での清掃と交流のボランティアや、自分たちがお世話になった保育園の草取り作業などを通じて、地域とつながっています。平成21年度からは、中学

仲間や地域との結束力を 新しい中学校でも生かしたい



3交代制で生徒に指導する附馬牛町にある3つのしし踊り団体

校の体育祭と町の運動会を合同で開催。地域の皆さんと協力しながら作り上げる運動会は勝敗を競うだけでなく、交流も深めることができ、開催する度に地域との結束力が強まってくることも感じました。新しい中学校では一つにまとまるのが難しいこともあるかと思いますが、そんなときは附馬牛中生の「結束力」で、共に力を合わせることを示したいと思います。



八つの志

その2

中学校は地域の「集いの場」 ずっと変わらずにあってほしい

『遠野物語』が息づくこの地域で学校生活を送っている私たちは、本当に幸せだと思えます。小学生のときに覚えた昔話を生かし、かっぱ淵などで観光案内をする「座敷童ボランティア」や、土淵にある五つの郷土芸能にそれぞれ取り組むなど、土淵ならではの知識や芸能を身に付けることができたからです。

私たちの学校はただの学校ではありません。花だん整備や公共施設の清掃、水質調査、雪かきなどの活動を、地域の皆さんと協力しながら進めてきました。その活動の中心は常に土淵中学校で、地域みんなが集い、安らぐ場所です。

卒業したいという気持ちはありますが、できることならこの中学校で卒業したいという気持ちはあります。

生徒会長 留場京香さん(2年)



かっぱ淵で観光客をもてなす土淵中の生徒たち

それはきつと私たちがだけではいけないかもしれません。しかし、私たちにはこれから始まる新しい中学校の「土台」をつくるという責任があります。先生だけに頼るのではなく、これまでの友人と新しい仲間たちと手を取り合うことが必要です。

学校はなくなりますが、土淵中で学んできたことや大切な思い出、その精神を、新しい中学校でも生かしていきたいです。

土淵中学校
 ★生徒数 49人
 ★校歌
 むらさき映ゆる 北の早池峯
 小鳥瀬うたう水の辺や
 田園みどり森ふかく
 わがふるさとの風かおる
 恵ぞゆたか
 土中われら 土中われら

上郷中生持ち前の「元気」で 新しい仲間たちと接したい

私たちはこれまで、上郷し踊りや上中太鼓など、先輩が守り続けてきた活動に誇りと自信を持って取り組んできました。これらの活動は上郷中の特徴であり、特にこの一年は、最後の上中生としてこれまで以上に全員の気持ちを一つにして活動することができました。また、資源回収や各地区ごとの活動などを通じて、学校生活を支えてくれる地域の皆さんとも協力しながら活動してきました。

上郷中の特徴は「元気があること」です。文化祭や体育祭、生徒会活動など、どんなことにも全力で取り組む姿勢は、市内のどの中学校にも負けません。元気があることは、自分を恥ずかしがらずに出すということ



昨年創立から30周年を迎えた全校生徒による「上郷しおどり」

もあり、これからの人生でとても大切なことだと思います。

新しい中学校では、最初は互いに戸惑いもあると思います。そんなときは私たち上郷中持ち前の「元気」で中学校同士の壁を取り払い、明るい遠野東中と一緒に盛り上げていけるようにしたいです。上郷で生まれ育ったことを誇りに持ち、土淵中と青笹中と、新しい中学校生活を送っていききたいです。



生徒会長 菊池和紀君(2年)

上郷中学校
 ★生徒数 75人
 ★校歌
 空美しく明けそめて
 薨輝く我が母校
 三年の夢の故郷よ
 心明るく集いして
 ああ我ら若き日を
 ここに学ぶ健やかに
 上郷 上郷 上郷中学校



生徒会長 照井 隆君(2年)

宮守中の生徒は、一人一人が積極的です。他の学校との会議でも、物おしせずしつかり意見を言えるからです。「宮中勝利宣言」や「ドカン」など、先輩から受け継がれてきた伝統の応援歌があり、大きな声で応援することが私たちの積極性にもつながっていると思います。この応援歌で生徒の心は一つになり、ほかの学校にはない「団結力」を生み出すことができます。

現在、小友中と新しい中学校のあり方について会議を開いています。互いの学校の良いところを話し合う中で、宮守中は地域の皆さんと一緒に歩んでいる学校だと改めて思いました。郷土芸能の伝承やごみ拾いなどの環境整備は、学校単位ではな

お互いの学校を尊重し合い 新しい伝統をつくりたい



生徒会長 菊池精君(2年)

私たち青笹中生は、郷土芸能である青笹し踊りや部活動など、多方面で地域の皆さんに支えていただきながら活動しています。いつでも真剣に指導してくださいますので、日々上達していることを実感できます。私たちだけではできないことをバックアップしてくれるので、とても心強いです。おかげで、最近では野球部やバレー部は地区大会のみならず、県大会でも結果を出すことができています。

私たちは先輩方から受け継がれてきた冬の雪かきボランティア「お助けマン活動」をしています。今年は学校周辺の公共施設の雪かきを行いました。普段からお世話になっている方々のために少しでも役立ちたいと思

感謝の気持ちを伝える精神を 新中学校でも持ち続けたい



全校で長年取り組んでいる郷土芸能「青笹し踊り」

宮守中学校
 ★生徒数 118人
 ★校歌
 砥森の山の朝ぼらけ
 光輝く丘の上に
 いらかは高しわが母校
 若人われら集いして
 いざ学びなん 今日の日を
 宮守 宮守 宮守中学校



全校生徒の心を一つにする合唱。文化祭や卒業式で披露される

く、地域の皆さんと互いに協力しながら活動しているからです。小友中も同じ特徴があるように、新しい中学校になってもうまく協力していけると思っています。

お互いの伝統を尊重し、意見を出し合いながら行動すれば、一つの学校ではできなかった大きな力が生まれます。その力で「遠野西中」としての新しい伝統をつくっていききたいです。

青笹中学校
 ★生徒数 69人
 ★校歌
 朝夕仰ぐ 六角牛の
 千古変わらぬ けだかき姿
 かくこそあらめ
 吾等の理想
 いざいざ励まん 学窓の友

い、この取り組みを続けてきました。この「感謝の気持ちを態度で表す」精神は、私たちの中でしっかりと生きており、誇りに思っています。

新しい中学校は、この青笹中に置かれます。生徒数が多くなる分、さまざまなイベントも、人数を生かした楽しいものになると思います。これからは「感謝の気持ちを態度で表す」精神を忘れずに、しっかりとした学校をつくっていききたいです。

取材を終えて

「地域の皆さんへ感謝したい」「この学校や地域が好き」「新しい学校の基礎を作り、後輩に引き継ぐ」。今回の取材で各中学校の生徒会長が口にした共通の言葉たちだ。

自分たちの学校生活が地域の支えの上に成り立っていることへの感謝。地域行事を支える郷土愛。そして後輩への思いやり。すべて目に見えないものだが、彼らにはおのおの先輩から受け継いだ精神がしっかりと根付いている。

生徒たちは今、4月からの新しい学校生活に向け、一緒にいる学校同士で話し合いを進めている。まだ見ぬ未知なる学校生活へ、8つの高い志を持った生徒たちが先陣を切って開拓していく。生徒たちには失敗をおそれずさまざまなことに挑戦してほしい。彼らがより良い学校生活を送れるよう、地域や大人たちがしっかりとサポートし、新しい学校と一緒に作り上げていこう。

特集「八つのありがとう」
終わり